

2 論文・学会等への発表

(1) 論文等発表一覧

論 文 名	執 筆 者	掲 載 誌	抄録掲載頁
ダイオキシン類環境調査 -土壌-	松枝隆彦, 安武大輔, 飛石和大, 大野健治, 桜木建治, 北直子, 岩本眞二	福岡県保健環境研究所年報, 第33号, 83-85, 2006	P 105
ダイオキシン類のTEQ指標異性体検索	安武大輔, 飛石和大, 大野健治, 桜木建治, 岩本眞二, 北直子, 松枝隆彦	福岡県保健環境研究所年報, 第33号, 63-67, 2006	P 105
わが国の小児科担当医療従事者における百日咳・ジフテリア菌の感染リスク評価	蒲池一成 ^{*1} , 遠藤美代子 ^{*2} 小宮貴子 ^{*1} , 豊泉裕美 ^{*1} , 八柳潤 ^{*3} , 齋藤志保子 ^{*3} , 内村眞佐子 ^{*4} , 杉山明 ^{*5} , 村上光一, 堀川和美, 柳川義勢 ^{*2} , 堀内善信 ^{*1} , 荒川宜親 ^{*1} , 諸角聖 ^{*2} , 高橋元秀 ^{*1} *1 国立感染症研究所 *2 東京都健康安全研究センター *3 秋田県衛生科学研究所 *4 千葉県衛生研究所 *5 三重県科学技術振興センター	感染症学雑誌, 81, 155 - 161, 2007.	P 105
赤痢菌型別検査方法としての Amplified Fragment Length Polymorphism (AFLP) 法の有用性の検討	野田多美枝, 村上光一, 濱崎光宏, 石黒靖尚, 宮原美知子 [*] * 国立医薬品食品衛生研究所	感染症学雑誌, 80, 513 - 521, 2006.	P 105
Features of <i>Salmonella</i> serovars among food handlers in Kyushu, Japan	Koichi Murakami, Tatsuo Ishihara ^{*1} , Kazumi Horikawa, Takahiro Oda ^{*2} *1 シー・アール・シー *2 中村学園大学短期大学部	New Microbiologica, 30, 155-159, 2007.	P 106
Effects of Prenatal Exposure to Polychlorinated Biphenyls and Dioxins on Mental and Motor Development in Japanese Children at 6 Months of Age	Sonomi Nakajima ^{*1,2} , Yasuaki Saijo ^{*1} , Shizue Kato ^{*1} , Seiko Sasaki ^{*1} , Akiko Uno ^{*1} , Nobuo Kanagami ^{*3} , Hironori Hirakawa, Tsuguhide Hori, Kazuhiro Tobiishi, Takashi Todaka ^{*4} , Yuji Nakamura ^{*2} , Satoko Yanagiya ^{*2} , Yasuhito Sengoku ^{*2} , Takao Iida, Fumihiro Sata ^{*1} , and Reiko Kishi ^{*1} *1 Hokkaido University *2 Sapporo Medical University *3 Sapporo Toho Hospital *4 Japan Food Hygiene Association	Environ Health Perspect., 114(5), 773-778, 2006.	P 106
健康食品中の塩酸ヨヒンピンのHPLC分析法	森田邦正, 毛利隆美, 中川礼子	福岡県保健環境研究所年報, 第33号, 68-71, 2006.	P 106

論文名	執筆者	掲載誌	抄録掲載頁
福岡・鹿家地区における水中ラドンによる屋内ラドン濃度への寄与並びに線量評価	檜崎幸範, 石川徹夫* ¹ , 吉永信治* ¹ , 古川雅英* ² , 卓維海* ¹ , 床次眞司* ¹ , 石橋融子* ³ , 松尾宏 *1 放射線医学総合研究所 *2 琉球大学 *3 福岡県庁	RADIOISOTOPES, 55, 457-467, 2006.	P 106
大気中ダイオキシン類の発生源寄与推定方法の検討 - Positive Matrix Factorization 法及び Chemical Mass Balance 法の適用 -	岩本真二, 松枝隆彦, 大野健治, 飛石和太, 安武大輔, 桜木建治	環境化学, 第16巻, 3号, 403-413, 2006	P 107
博多湾における生物生息適正地の評価	熊谷博史	環境工学研究論文集, 第43巻, 443-448, 2007.	P 107
ボーリングコア試料中における多環芳香族炭化水素類濃度について	塚谷裕子, 馬場義輝, 志水信弘, 田中義人, 岩本真二, 中村又善, 池浦太荘	福岡県保健環境研究所年報, 第33号, 104-107, 2006.	P 107
フラボノイド類の THM 生成能の評価	松尾 宏, 永淵義孝, 中村又善	福岡県保健環境研究所年報, 第33号, 72-76, 2006.	P 107
有明海に流入する筑後川及び矢部川の降水時流出と負荷量変動	田中義人, 熊谷博史, 松尾宏, 中村又善	用水と廃水, Vol. 48, No. 9, 59-65, 2006.	P 108
福岡県の河川汚濁の変遷	志水信弘, 松尾宏, 笹尾敦子, 中村又善	福岡県保健環境研究所年報, 第33号, 77-81, 2006.	P 108
廃棄物最終処分場の浸出水による風化花崗岩からの水銀溶出挙動	土田大輔, 高橋浩司, 鳥羽峰樹, 黒川陽一, 永瀬誠, 宇都宮彬	廃棄物学会論文誌, Vol. 17, No. 4, 251-258, 2006	P 108
A new species of the genus <i>Zaitzeviaria</i> (Coleoptera, Elmidae) from Tsushima Islands, Japan	Y. Kamite * ¹ , T. Ogata, M. Satô* ² *1 名古屋市衛生研究所 *2 名古屋市緑区	Japanese Journal of Systematic Entomology, 12, 149-153, 2006.	P 108
水生昆虫から河川環境を判定する - 日本版平均スコア法の紹介	緒方 健, 谷田一三* * 大阪府立大学	昆虫と自然, 41(8), 20-23, 2006.	P 109
計 (論文等発表一覧)	17 件		

(2) 発表論文抄録

1 ダイオキシン類環境調査 -土壌-

松枝隆彦, 安武大輔, 飛石和大, 大野健治, 桜木健治, 北直子, 岩本眞二: 福岡県保健環境研究所報, 第33号, 83-85, 2006.

2000~2004年度に福岡県内77市町村の218ヶ所において採取した土壌, 合計218件についてダイオキシン類(DXN)を測定し, 県内のDXN汚染実態を解析した.

一般環境におけるTEQ濃度の平均値, 中央値, 最小及び最大値は, それぞれ 1.6, 0.53, 0.26 及び45pg-TEQ/g であった. 一方, 発生源周辺におけるそれらの値は2.2, 0.91, 0.26 及び33pg-TEQ/g であった. いずれも平均値は土壌の環境基準値(1000pg-TEQ/g)の1/500以下であった. また, 最高値は一般環境における45pg-TEQ/g で要監視基準値(250pg-TEQ/g)を超える試料も認められなかった. DXN発生源の寄与率をCMB-8法により評価した結果, 農薬CNP4.3% (1.3-7.1%), 農薬PCPが56.5 (32-90%), 燃焼15.1% (1.8-36%) 及びPCB13% (5.9-27%) であった. 農村地帯の土壌で農薬PCPの寄与率が高い傾向を示した.

2 ダイオキシン類のTEQ指標異性体検索

安武大輔, 飛石和大, 大野健治, 桜木健治, 岩本眞二, 北直子, 松枝隆彦: 福岡県保健環境研究所報, 第33号, 63-67, 2006.

排ガス, 大気, 土壌, 底質及び河川水の簡易分析法に適用するため, ダイオキシン類データベースを用いてTEQ指標異性体の検索を行った. 2000年度から2004年度に福岡県内において採取された排ガス (n=54), 大気 (n=167), 土壌 (n=213), 底質 (n=121) 及び河川水 (n=140) の試料を用いて, 媒体ごとに116種類の異性体濃度とTEQとの相関からTEQ指標異性体を調査した. その結果, 排ガスと大気では2, 3, 4, 7, 8-PeCDF, 土壌では2, 3, 4, 6, 7, 8-HxCDF, 底質では1, 2, 3, 4, 8/1, 2, 3, 7, 8-PeCDF, 河川水では1, 2, 3, 6, 7, 8-HxCDDが, TEQと高い相関を示し, TEQ指標異性体として利用可能であることが分かった. また, 1, 2, 3, 6, 7, 8-HxCDD及び1, 2, 3, 4, 6, 8-HxCDFが, 全媒体で比較的高い相関を示し, 共通なTEQ指標異性体として利用できると考えられる.

3 わが国の小児科担当医療従事者における百日咳・ジフテリア菌の感染リスク評価

蒲池一成^{*1}, 遠藤美代子^{*2}, 小宮貴子^{*1}, 豊泉裕美^{*1}, 八柳潤^{*3}, 齋藤志保子^{*3}, 内村眞佐子^{*4}, 杉山明^{*5}, 村上光一, 堀川和美, 柳川義勢^{*2}, 堀内善信^{*1}, 荒川宜親^{*1}, 諸角聖^{*2}, 高橋元秀^{*1}: 感染症学雑誌, 81, 155 - 161, 2007.

医療従事者から乳幼児への百日咳・ジフテリア菌の感染リスクを評価するため, わが国の小児科担当医療従事者を対象に両菌の保菌ならびに抗体保有状況を調査した. その結果, 1) 百日咳とジフテリアに対し, 小児科医療従事者の約半数が抗体非保有者である, 2) 小児科医療従事者は百日咳患者と接触する頻度が高いものの患者からの感染頻度は低いことが明らかとなった.

- * 1 国立感染症研究所
- * 2 東京都健康安全研究センター
- * 3 秋田県衛生科学研究所
- * 4 千葉県衛生研究所
- * 5 三重県科学技術振興センター

4 赤痢菌型別検査方法としてのAmplified Fragment Length Polymorphism (AFLP) 法の有用性の検討

野田多美枝, 村上光一, 濱崎光宏, 石黒靖尚, 宮原美知子*: 感染症学雑誌, 80, 513 - 521, 2006.

分子疫学的解析法の一つである amplified fragment length polymorphism (AFLP) 法が, 赤痢菌に対する型別方法として有用であるか否かを検討した. 赤痢菌51株を, AFLP法とコリシン型別法およびパルスフィールドゲル電気泳動法(PFGE法)の3法で型別し, 「型別能力」, 「再現性」, 「識別能力」, 「解釈の容易さ」および「実行の容易さ」の5項目について比較を行った. その結果AFLP法は, 型別能力が100%, 識別能力がSimpson's Indexにて1.000と優れている反面, 結果の解釈の容易さ, 実行の容易さ, さらに再現性が劣っている(81.9% - 90.5%)ことが明らかになった. これらのことから, AFLP法は再現性が若干低いため, 赤痢菌に対しては, クラスター解析の手法としては有用であるが, 単独で感染源および感染経路特定のための型別方法として用いるのは困難であると結論付けられた.

- * 国立医薬品食品衛生研究所

5 Features of *Salmonella* serovars among food handlers in Kyushu, Japan

Koichi Murakami, Tatsuo Ishihara*, Kazumi Horikawa, Takahiro Oda** : *New Microbiologica*, 30, 155-159, 2007.

福岡県を中心に九州地方にて、食品を取り扱う仕事に従事するヒト（食品業従事者）が、どの程度の割合でサルモネラを保菌しているか調べた。さらに有症者から分離されたサルモネラの血清型の分布と比較して、食品業従事者に保菌されているサルモネラの血清型の特徴を明らかにしようとした。その結果、食品業従事者 331,644 人中 106 人 (0.032%) がサルモネラを保菌しており、その中では血清型 *Infantis* が48.1%, *Corvallis* が15.1%, *Enteritidis* が12.3%を占め優勢であった。有症者では血清型 *Infantis* は6.3%を占めるに過ぎず、*Corvallis* は分離されなかった。しかし *Enteritidis* は68.8%を占めていた。このように血清型 *Infantis* は、食品業従事者の中では、他の血清型に比較し高率に保菌されるが、有症者の原因菌に占める割合は低いことが判明した。

*シー・アール・シー

**中村学園大学短期大学部

6 Effects of Prenatal Exposure to Polychlorinated Biphenyls and Dioxins on Mental and Motor Development in Japanese Children at 6 Months of Age

Sonomi Nakajima,^{1,2} Yasuaki Saijo,¹ Shizue Kato,¹ Seiko Sasaki,¹ Akiko Uno,¹ Nobuo Kanagami,³ Hironori Hirakawa, Tsuguhide Hori, Kazuhiro Tobiishi, Takashi Todaka,⁴ Yuji Nakamura,² Satoko Yanagiya,² Yasuhito Sengoku,² Takao Iida, Fumihito Sata,¹ and Reiko Kishi¹
Environmental Health Perspectives, 40-48, 2005.

2003-2004年に北海道で採取された134名の妊婦の血液中ダイオキシン濃度と出産した子供の6ヶ月時点での精神発達と運動発達の評価点を比較した。その結果、精神発達で1つの異性体と運動発達で5つの異性体の濃度と負の相関があり、ダイオキシン類同族体の濃度が高くなると精神発達および運動発達の評価点が低くなる結果が得られた。ダイオキシン類のTotal-TEQ値は運動発達への影響はないが、個々の同族体では運動発達に負の影響を及ぼす可能性のあることが示唆された。

¹ Hokkaido University

² Sapporo Medical University

³ Sapporo Toho Hospital,

⁴ Japan Food Hygiene Association

7 健康食品中の塩酸ヨヒンビンのHPLC分析法

森田邦正, 毛利隆美, 中川礼子 : 福岡県保健環境研究所年報, 第33号, 68-71, 2006.

逆相系の高速液体クロマトグラフを使って、健康食品中の塩酸ヨヒンビンの分析法を検討した。健康食品中の塩酸ヨヒンビンは0.1%酢酸メタノールで抽出し *Bond Elut Certify* カートリッジ(固相抽出法)を用いて2%アンモニア水-メタノール溶液でクリーンアップした。高速液体クロマトグラフはカラムに *Cosmosil 5C18-MS-II* (4.6 x 150 mm, 5microns)を、移動相に pH7の0.02 mol/L リン酸塩緩衝液/アセトニトリル (65:35, v/v) を用い、測定波長276nm で分析した。その結果、ODS カラムに pH7の0.02 mol/L リン酸塩緩衝液の移動相を使用し良好な分離が得られた、また *Bond Elut Certify* カートリッジを用いることにより共存物質を効果的に除去することができた。本法による健康食品からの塩酸ヨヒンビンの回収率は99.5%、定量下限値は0.03 mg/g であった。

8 福岡・鹿家地区における水中ラドンによる屋内ラドン濃度への寄与並びに線量評価

檜崎幸範, 石川徹夫*¹, 吉永信治*¹, 古川雅英*², 卓維海*¹, 床次真司*¹, 石橋融子*³, 松尾宏 : *RADIOISOTOPES*, 55, 457-467, 2006.

福岡県鹿家地区の生活用水中ラドン濃度と住居内ラドン濃度との関係について述べた。生活用水中ラドン濃度は36~130 Bq/lであった。このうち簡易水道水の平均ラドン濃度は43Bq /l, 個人の井戸水では100 Bq/lであった。全ての生活用水中のラドン濃度は、現在USEPAが提案している最大汚染レベル (MCL : 11Bq/l) と最大汚染レベルの代替値 (AMCL : 150 Bq/l) の間であった。住居内のラドン濃度は4.5~46 Bq/m³。算術平均値14 Bq/m³であった。住居内のラドン濃度に、USEPAの対策レベルを超えた値はなかった。屋外の年間ラドン濃度は2.0~7.5Bq/m³, 算術平均値は4.0Bq/m³であった。大気中のラドン濃度はわが国の全国平均値と差がなかった。なお、UNSCEAR 2000年報告書の線量換算係数を用いて計算したラドンによる年間実効線量は平均0.44 mSv/yと見積もられた。

*¹放射線医学総合研究所 *²琉球大学 *³福岡県庁

9 大気中ダイオキシン類の発生源寄与推定方法の検討 —Positive Matrix Factorization法及びChemical Mass Balance 法の適用—

岩本真二, 松枝隆彦, 大野健治, 飛石和大, 安武大輔, 桜木建治: 環境化学, 第16巻, 3号, 403-413, 2006.

ダイオキシン類の発生源寄与を推定するためにリセプターモデルである Positive Matrix Factorization (PMF) 法及び Chemical Mass Balance (CMB) 法を適用した。解析の対象としたのは, 1999年から2004年までに福岡県で採取された大気試料210件である。PMF 法によって, 発生源として廃棄物焼却炉, 製品 PCB, 農薬 PCP, CNP の4つが推定され, それぞれの平均寄与率は, 廃棄物焼却炉21%, PCB 35%, 農薬PCP 27%, 農薬CNP 16%となった。PMF 法による発生源プロファイルを実測発生源データと比較したところ, PCB, CNP, 廃棄物焼却炉で概ね類似したパターンであったが, PCP では若干異なっていた。PMF 発生源プロファイルと実測発生源データを組み合わせて, CMB 法により発生源寄与を計算し, 個々のサンプルについて評価を比較した。その結果, 5つのケースで評価を満たす結果が多かったが, その中でも PCB にのみ PMF プロファイルを使ったケースが最も適切と考えられた。これらの発生源データを使った発生源寄与率は, 廃棄物焼却炉40%, PCB44.1%, PCP2.1%, CNP 7.2%であった。

10 博多湾における生物生息適正地の評価

熊谷博史: 環境工学研究論文集, 第43巻, 443-448, 2005

DO 値に基づいて生物生息適性を判定するモジュールを生態系モデル中に導入し, 博多湾における生物生息適性地図を作成することで, 経時的・空間的な生物生息適性地の変動を明らかにした。その結果, 2001年4月~2002年3月における博多湾の表層は一年を通じて生物生息適地であった。一方で, 同時期の博多湾の生物生息不適地は, 室見川河口付近の窪地や航路等, 周辺の水深に比較して局所的に深くなっている海域の底層に存在し, 夏季にその領域が拡大し, 冬季に消滅していた。この結果と生物の移動能力から, 底層に貧酸素水塊が出現しても, ほとんどの魚類は遊泳力により DO の豊富な上層へ回避行動をとることが可能であるが, 移動能力の劣るベントスは貧酸素水塊の影響を直接受けると推察された。

11 ボーリングコア試料中における多環芳香族炭化水素類濃度について

塚谷裕子, 馬場義輝, 志水信弘, 田中義人, 岩本真二, 中村又善, 池浦太荘: 福岡県保健環境研究所年報, 第33号, 104-107, 2006.

九州北部地域を流れる河川においてボーリング調査を実施し, その試料中の多環芳香族炭化水素類 (PAHs) 濃度の測定を行った。その結果, No. 2の地点で高い値 (ナフタレン19,000 μ g/g-dry soil (深度0 m), アセナフチレン2,200 μ g/g-dry soil (深度1.5 m) 他11物質) を示した。また, 今回調査した地点 No. 1と No. 2における PAHs13物質の組成比が類似していることから, 同一の発生源を持つ可能性が高いと考えられた。これら調査地点に隣接する化学工場からの排水は現在行われていないが, 過去に PAHs を含む排水が排出され, 底質に蓄積したものと推察された。

12 フラボノイド類のTHM生成能の評価

松尾宏, 永淵義孝, 中村又善: 福岡県保健環境研究所年報, 第33号, 72-76, 2006.

フラボノイド類は, 本来自然由来の有機物 (NOM) の一つであり, 野菜や果実などに広く含まれている。それらの加工の過程で水中に溶出し, 河川等に流出しているため, 下流の水道水源に影響を及ぼしている可能性も考えられる。市販のフラボノイド類15種類の標準品について, 水溶解性及びTHMFPを検討し評価を行った。20°Cで比較的飽和溶解度の大きいフラボノイド類 (DOC: 30-40mg/l) は Fisetin, Flavanone, Hesperetin および Fustin であった。THM生成率が300-400 μ g/mg \cdot Cと高いフラボノイド類は Morin であった。総合的評価として, 飽和溶解度におけるTHMFPの高いフラボノイド類 (THMFP: 4000-6000 μ g/l) は Naringenin, Hesperetin および Quercetin であった。水道水のTHMの基準が100 μ g/l以下ということから, 1 μ g/l未満の影響で評価する場合, Naringenin, Hesperetin および Quercetin については最大で10000倍程度の希釈が, 発生源から水道取水源に至るまでに必要と推定された。

13 有明海に流入する筑後川及び矢部川の降水時流出と負荷量変動

田中義人, 熊谷博史, 松尾宏, 中村又善: 用水と廃水, Vol. 48, No. 9, p. 59-65, 2006

有明海に流入する筑後川及び矢部川を対象として, 降雨時に水質調査を実施し, 両河川における降雨時流出状況及び流量-負荷量の関係から流出負荷量の推定を行った. 降雨時の流出については, 流域が比較的小さい矢部川(船小屋)で顕著な降雨時の初期流出が観られた. また, 懸濁態を含む COD 及び T-P が SS と同様な流出状況を示していた. 一方, 筑後川では矢部川ほど顕著な濃度上昇は見られなかったが, SS の濃度上昇がみられた. 両河川の降雨時調査結果から負荷量(L)-流量(Q)の相関を求め, 2004年の年間の日流量データから年間負荷量を試算した. その結果, 2004年は降水の少なかった冬季に比べ, 降雨の多かった5月から9月に負荷量の大部分が流出したことが推測された. さらに, 同じ L-Q 関係を用いて1999年から2003年までの年間負荷量の試算を行った. その結果, 年によって負荷量変動が大きいことが推測され, 特に, SS と T-P の変動が大きいことが推測された.

14 福岡県の河川汚濁の変遷

志水信弘, 松尾宏, 笹尾敦子, 中村又善: 福岡県保健環境研究所年報, 第33号, 77-81, 2006.

1984年から2001年までの県内河川水の水質データを用い, 生物化学的酸素要求量(BOD), 全窒素(T-N)及び全リン(T-P)に関して長期的な汚濁の変遷を明らかにするとともに河川汚濁の進行又は改善の要因を解析した. その結果, 各地域の河川の傾向は, 汚濁傾向の組み合わせにより4つの類型に分類できた. また, 排水対策の進んでいる地域においても, T-N 及び T-P は増加傾向にあることが多く, 排水の高度処理対策を推進する必要があると考えられた. 特に T-N は, 県内のほとんどの地域で増加傾向にあり, N/P 比の増加など水質のバランスを変化させ続けていることが明らかになった.

15 廃棄物最終処分場の浸出水による風化花崗岩からの水銀溶出挙動

土田大輔, 高橋浩司, 鳥羽峰樹, 黒川陽一, 永瀬誠, 宇都宮彬: 廃棄物学会論文誌, Vol. 17, No. 4, pp. 251-258, 2006.

廃棄物処分場の浸出水が, 地質中の水銀を可溶化する可能性について調査するため, 風化花崗岩を対象として, バッチ溶出試験(環境庁告示第46号試験, pH依存性溶出試験)およびカラム溶出試験を実施した. 溶出溶媒として, 純水, 浸出水, 塩基性溶液, 塩化ナトリウム溶液などを用いた. バッチ溶出試験の結果, pH10以上の塩基性溶液により, 風化花崗岩に含まれる水銀が溶出した. カラム溶出試験の結果, 塩基性溶液および塩基性を示す浸出水により, 風化花崗岩から水銀が溶出した. 水銀の溶出は, 溶出液の pH が8以上になると始まり, 溶出液の pH の増加に伴って, 濃度が高くなった. このときの, 地質試料からの水銀溶出量は, 水銀含有量の4~5%に相当した.

16 A new species of the genus *Zaitzeviaria* (Coleoptera, Elmidae) from Tsushima Islands, Japan

Yuuki Kamite^{*1}, Takeshi Ogata, Masataka Satô^{*2}: Japanese Journal of Systematic Entomology, 12, 149-153, 2006.

長崎県対馬からヒメツヤドロムシ属(*Zaitzeviaria*)の新種クリハラヒメツヤドロムシ(*Zaitzeviaria kuriharai*)を記載した. また, 日本産のヒメツヤドロムシ属の既知の種について検索のキーを示した.

*1 名古屋市衛生研究所

*2 名古屋市緑区

17 水生昆虫から河川環境を判定する－日本版平均スコア法の紹介

緒方 健，谷田一三*：昆虫と自然，41(8)，20-23，2006.

生物を専門としない研究者・技術者が生物学的に河川環境評価を行うのに適した方法だと思われる，スコア法を紹介した．

対象とする生物，採集方法，評価方法についての解説を行った．今後の課題としては，最新の分類体系に対応したスコア表の見直し，多様な河川環境に対応した，採集方法の検討が考えられる．

* 大阪府立大学

(3) 学会等口頭発表一覧

①国際学会

演 題 名	発 表 者	学会名 (場所), 年月日
Some Experiment of Syndromic Surveillance in Japan for Early Detection of Bioterrorism Attack and Pandemic Influenza	Yasushi Ohkusa, Daisuke Onozuka, Tamie Sugawara, Kiyosu Taniguchi, Nobuhiko Okabe	10th Western Pacific Congress on Chemotherapy and Infectious Diseases (Fukuoka, Japan), December 4, 2006.
Omuta river problem -dioxin contaminated case-	Kazuhiro Tobiishi, Daisuke Yasutake, Kenji Ohno, Takahiko Matsueda and Kenji Sakuragi	26 th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Oslo, Norway), August 21-25, 2006.
Development of the simple measurement of dioxins in polluted soils	Daisuke Yasutake, Kazuhiro Tobiishi, Kenji Ohno, Shinji Iwamoto, Kenji Sakuragi and Takahiko Matsueda	26 th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Oslo, Norway), August 21-25, 2006.
Determination of brominated flame retardants and brominated dioxins in fish collected from three regions of Japan	Reiko Nakagawa, Yuki Ashizuka, Tsuguhide Hori, Daisuke Yasutake, Kazuhiro Tobiishi and Kumiko Sasaki* * National Institute of Health Sciences	26 th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Oslo, Norway), August 21-25, 2006.
Follow-up survey of dioxins and related chemicals in the blood of Yusho patients in 2002-2005	Takashi Todaka *, Hironori Hirakawa, Jumboku Kajiwara, Kazuhiro Tobiishi, Takao Iida, Takesumi Yoshimura and Masutaka Furue * * Kyushu University	26 th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Oslo, Norway), August 21-25, 2006.
Dioxin and Related Chemicals Concentration in Human Milk	Jumboku Kajiwara, Takashi Todaka * ¹ , Hironori Hirakawa, Tsuguhide Hori, Takao Iida, Noriaki Washino ^{*2} , Kanae Konishi ^{*2} , Shigeyuki Matuzawa ^{*2} , Susumu Ban ^{*2} , Fumihiko Sata ^{*2} , Reiko Kishi ^{*2} and Takesumi Yoshimura *1 Kyushu University *2 Hokkaido University	26 th International Symposium on Halogenated Persistent Organic Pollutants (Oslo, Norway), August 21-25, 2006.
Study on wide-area NOx purification technology with natural wind as a driving force	T. Shimohara, S. Niiya, S. Otou ^{*2} , A. Kitajou, I. Mochida ^{*2} *1 Fukuoka Prefecture (Environmental Preservation Division) *2 Kyushu University	4th China-Japan-Korea Joint Symposium on 'Carbon Materials to Save the Earth', Beijing, CHINA, 9-11 Nobenber 2006.
The establishment of a wide-area air purification technology using the ACF fence which makes use of the natural wind	T. Shimohara, S. Niiya, N. Itagaki, T. Kitada* * Toyohashi University of Technology	JSPS-MOE (拠点大学交流「都市環境」会議), Kyoto, Japan, 3-4 October 2006.

演 題 名	発 表 者	学会名 (場所), 年月日
Estimation of benefit and cost associated with the use of inert waste landfills	Daisuke Tsuchida, Hirofumi Nakayama, Takayuki Shimaoka	The 7th International Conference on EcoBalance, Tsukuba, Japan, November 14-16, 2006.
計 (国際学会)	9 件	

②国内学会（全国）

演 題 名	発 表 者	学会名（場所），年月日
感染症と疫学	吉村健清	衛生微生物協議会題27回研究会 （札幌市），平成18年6月30日
環境疫学の現状と将来	吉村健清	日本がん疫学研究会 NEWS CAST
妊娠時期からの子ども虐待予防を考える ～筑紫管内市町における統一システム構築の試み～	賀村悦子，安西美香，三村響子，小林智恵，寺田貴代，西岡未和，本園宏子，掛川秋美，小野塚大介，吉村健清，中村譲治	第65回日本公衆衛生学会 （富山市）， 平成18年10月25日
福岡県における結核統計の地域分析	小野塚大介，佐野正，宮崎親	第20回公衆衛生情報研究協議会 （高松市），平成19年2月15-16日
大気汚染常時監視システムの現状と今後	大久保彰人	大気環境学会環境大気モニタリング分科会第20回研究会 （東京都），平成19年3月9日
環有明海地域における衛星リモートセンシング情報の適用	大久保彰人，高木潤治* ¹ ，許斐健治* ² ，黒柳直彦* ² ，竹下一義* ³ ，安藤朗彦* ⁴ *1 福岡県森林林業技術センター *2 福岡県農業総合試験場 *3 財団法人飯塚研究開発機構 *4 福岡県水産海洋技術センター	東京大学生産技術研究所第16回生研フォーラム「宇宙からの地球環境モニタリングフォーラム」 （東京都）， 平成19年3月26日
福岡県保健環境研究所情報システムの再構築の基本方針とその運用について	高尾佳子，小野塚大介，新谷俊二，大久保彰人，片岡恭一郎，藤野友和* * 福岡女子大学人間環境学部	第20回公衆衛生情報研究協議会 （高松市）， 平成19年2月15-16日
高活性炭素繊維を用いた環境大気浄化に関する研究(13)－中央分離帯における自然風を利用した大気浄化システムの構築－	新谷俊二，下原孝章	第47回大気環境学会年会 （東京都）， 平成18年9月20-22日
ダイオキシン類の簡易分析	松枝隆彦，安武大輔，大野健治，飛石和大，桜木建治	第15回環境化学討論会(仙台市)， 平成18年6月20日-22日
m-アミノフェノール	飛石和大，塚谷裕子，田中義人，中村又善，桜木建治	平成18年度化学物質調査分析法講習会（東京都）， 平成18年6月26日-27日

演 題 名	発 表 者	学会名 (場所), 年月日
ヒトに対するサルモネラ血清型 Infantis の感染源の究明	野田多美枝, 村上光一, 濱崎光宏, 石黒靖尚, 浅井鉄夫* * 農林水産省動物医薬品検査所	第27回日本食品微生物学会学術総会 (堺市), 平成18年9月22日
サルモネラ血清型 Enteritidis 及び Corvallis の遺伝子型に関する研究	村上光一, 野田多美枝, 石黒靖尚, 大槻公一* * 京都産業大学	第142回日本獣医学会学術集会 (山口市), 平成18年9月22日
サルモネラ血清型 Infantis の遺伝子型に関する研究	村上光一, 野田多美枝, 濱崎光宏, 竹中重幸, 堀川和美, 石黒靖尚	第65回日本公衆衛生学会総会 (富山市), 平成18年10月25日
九州地区で分離された食中毒および病院由来黄色ブドウ球菌の比較解析	堀川和美, 東根秀明*1, 山口仁孝*2, 瓜生佳世*3, 緒方喜久代*4, 野田多美枝, 松岡由美子*4, 吉國謙一郎*5, 渡辺治雄*6 *1 長崎市保健所, *2 徳島大学分子酵素学研究センター, *3 福岡市保健環境研究所, *4 大分県衛生環境研究センター, *5 鹿児島県環境保健センター, *6 国立感染症研究所	第76回日本感染症学会西日本地方総会 (岡山市), 平成18年11月23-24日
食品から検出された病原因子保有大腸菌について	濱崎光宏, 堀川和美, 村上光一, 野田多美枝, 竹中重幸, 石黒靖尚	第27回日本食品微生物学会学術総会 (堺市), 平成18年9月22日
イノシン肉からのE型肝炎ウイルス感染について	石橋哲也, 江藤良樹, 世良暢之, 千々和勝己	衛生微生物技術協議会第27回研究会 (札幌市), 平成18年6月29-30日
福岡県の紅斑熱患者発生地における媒介マダニの調査	石橋哲也, 千々和勝己, 山本正悟 (宮崎県衛生環境研究所), 藤田博己 (大原総合病院附属大原研究所), 片山丘 (神奈川県衛生研究所), 田原研司 (島根県保健環境科学研究所), 御供田睦代 (鹿児島県環境保健センター), 大瀬戸光明 (愛媛県立衛生環境研究所), 萩野和正 (産業医科大学))	第13回リケッチア研究会 (北九州市), 平成18年10月21-22日
Inhibition effects of green and yellow vegetables against 8-OH-dG induced by nitrophenanthrene derivatives or aristolochic acid in C3H/He mice	世良暢之, 福原潔*1, 宮田直樹*2, 佐々木茂樹*3, 内海英雄*3, 常盤寛*4, 中西洋一*3 *1 国立衛生試験所 *2 名古屋市立大学 *3 九州大学 *4 九州女子大学	日本環境変異原学会第35回大会 (堺市), 平成18年11月19-21日

演 題 名	発 表 者	学会名 (場所), 年月日
油症患者の血中ダイオキシン類濃度の追跡調査2004	梶原淳睦, 戸高 尊*, 平川博仙, 堀 就英, 松枝隆彦, 飛石和夫, 安武大輔, 小野塚大介, 中川礼子, 飯田隆雄, 吉村健清 * 九州大学	第15回日本環境化学討論会 (仙台市), 平成18年6月20日-22日
ヒト母乳中ダイオキシン類の分析	梶原淳睦, 戸高 尊* ¹ , 平川博仙, 堀 就英, 井上 英* ² , 加藤静恵* ³ , 佐々木成子* ³ , 中島そのみ* ³ , 西條泰明* ³ , 佐田文宏* ³ , 岸玲子* ³ *1 九州大学 *2 日本食品衛生協会 *3 北海道大学	日本食品衛生学会第92回学術講演会 (春日井市), 平成18年10月26日-27日
母乳中のポリ塩化ビフェニル (PCB) 異性体分析	井上 英* ¹ , 堀 就英, 戸高 尊* ² , 平川博仙, 梶原淳睦, 加藤静恵* ³ , 佐々木成子* ³ , 中島そのみ* ³ , 西條泰明* ³ , 佐田文宏* ³ , 岸玲子* ³ *1 日本食品衛生協会 *2 九州大学 *3 北海道大学	日本食品衛生学会第92回学術講演会 (春日井市), 平成18年10月26日-27日
Follow-up Survey of Dioxin Concentrations in the Blood of Yusho Patients in 2005	戸高 尊* ¹ , 平川博仙, 梶原淳睦, 堀 就英, 飛石和夫, 飯田隆雄* ² , 吉村健清, 古江増隆* ¹ *1 九州大学 *2 北九州生活化学センター	第9回環境ホルモン学会研究発表会 (東京都), 平成18年11月11日-12日
ヒト母体血中のダイオキシン類濃度	平川博仙, 戸高 尊* ¹ , 井上 英* ² , 堀 就英, 梶原淳睦, 加藤静恵* ³ , 佐々木成子* ³ , 中島そのみ* ³ , 西條泰明* ³ , 佐田文宏* ³ , 岸玲子* ³ *1 九州大学 *2 日本食品衛生協会 *3 北海道大学	第9回環境ホルモン学会研究発表会 (東京都), 平成18年11月11日-12日
食品における臭素化ダイオキシン及びその関連化合物の汚染実態調査	芦崎由紀, 中川礼子, 堀 就英, 村田さつき, 安武大輔, 佐々木久美子	第43回全国衛生化学技術協議会年会 (米子市), 平成18年11月1日-2日
ポジティブリスト制に対応したGC/MS及びLC/MS/MSによる残留農薬一斉分析法の検討	村田さつき, 芦塚由紀, 梶原淳睦, 平川博仙, 堀 就英, 中川礼子	第43回全国衛生化学技術協議会年会 (米子市), 平成18年11月1日-2日
油症患者の血中PCBs異体別分析-2005年度油症検診結果-	堀 就英, 安武大輔, 芦塚由紀, 梶原淳睦, 中川礼子, 戸高 尊* ¹ , 平川博仙, 飯田隆雄* ² , 吉村健清 *1 九州大学 *2 北九州生活化学センター	第43回全国衛生化学技術協議会年会 (米子市), 平成18年11月1日-2日
食品における臭素化ダイオキシン及び臭素系難燃剤の汚染実態調査	芦塚由紀, 中川礼子, 堀 就英, 安武大輔, 佐々木久美子	第9回環境ホルモン学会研究発表会 (東京都), 平成18年11月11日-12日

演 題 名	発 表 者	学会名 (場所), 年月日
福岡県における降水成分及び ガス・エアロゾル中成分濃度 の経年変化	大石興弘, 村野健太郎* * 国立環境研究所	第47回大気環境学会年会 (東京都) 平成18年9月20-22日
PMF 法を適用した大気中ダイ キシン類の発生源寄与推定方 法の検討	岩本真二	第47回大気環境学会年会 (東京都) 平成18年9月20-22日
高活性炭素繊維を用いた環境 大気浄化に関する研究(14) - 自然風を利用した効率的な NOx 浄化のための炭素繊維形 状の検討-	下原 孝章, 新谷俊二, 板垣 成泰* * 福岡県リサイクル総合研究センター	第47回大気環境学会年会 (東京都), 平成18年9月20-22日
The establishment of a wide-area air purification technology using the ACF fence which makes use of the natural wind	下原 孝章, 新谷俊二, 板垣成泰, 北田敏廣* * 豊橋技術科学大学	JSPS-MOE 拠点大学交流「都市 環境」会議 (京都市), 平成18年10月3日-4日
北九州における室内環境と自 覚症状に関する調査	力寿雄, 岩本真二, 吉村健清, 岸玲子	平成18年度室内環境学会総会 (東京都), 平成18年11月27-28日
河川底質による多環芳香族炭 化水素類 (P A H s) の分解 性の検討	馬場義輝, 塚谷裕子, 梶原佑介	第43回日本水処理生物学会 (仙台市), 平成18年11月17-18日
博多湾における生物生息適正 地の評価	熊谷博史	第43回環境工学研究フォーラム (函館市), 平成18年11月17-19日
九州北部地域の底質における 多環芳香族炭化水素類の分解 特性	塚谷裕子, 梶原佑介, 馬場義輝	第41回日本水環境学会 (大阪府), 平成19年3月15-17日
九州北部地域における河川水 中の多環芳香族炭化水素類(P A H s) の濃度分布とその河 川水中での分解性	梶原佑介, 馬場義輝, 塚谷裕子	第41回日本水環境学会 (大阪府), 平成19年3月15-17日

演 題 名	発 表 者	学会名 (場所), 年月日
ヘキサコナゾール	塚谷裕子, 飛石和大, 田中義人, 中村又善, 桜木建治	平成18年度化学物質調査分析法講習会 (東京都), 平成18年6月26-27日
不法投棄現場における埋立範囲特定のための簡易調査法の適用	高橋浩司, 黒川陽一, 土田大輔, 濱村研吾, 永瀬誠, 長野隆英	第17回廃棄物学会研究発表会 (北九州市), 平成17年11月20日
筑後川上流域大山川における流量変動が水生昆虫群集に与える影響	緒方健, 山崎正敏, 中村朋史, 矢野真一郎 ^{*1} , 島谷幸宏 ^{*1} , 河口洋一 ^{*1} , 齋藤正徳 ^{*2} , 井芹寧 ^{*3} , 清野聡子 ^{*4} *1 九州大学大学院工学研究院 *2 九州大学大学院工学府 *3 西日本技術開発(株) *4 東京大学大学院総合文化研究科	日本陸水学会第71回大会 (松山市), 平成18年9月16-18日
福岡市近郊里山林における林床植生と土壌動物との関係	須田隆一, 緒方健, 中村朋史, 山崎正敏	第9回自然系調査研究機関連絡会議 (盛岡市), 平成18年11月30日
計 (国内学会 (全国))	40件	

③国内学会（地方）

演 題 名	発 表 者	学会名（場所），年月日
妊娠時期からの子ども虐待予防を考 える ～筑紫管内市町における統一 システム構築の試み（第2報）～	賀村悦子，安西美香，中園 直美，三村 響子，立石 未和，小林 智恵，寺田貴 代，本園宏子，掛川秋美，小野塚大介， 吉村健清，中村譲治	第53回福岡県公衆衛生学会 （福岡市）， 平成18年5月18日
災害時の食に関する調査について	井上 和美，撰田 由美子，小宮 弘子， 佐藤 貴美子，小野塚 大介，吉村健清	第53回福岡県公衆衛生学会 （福岡市），平成18年5月18日
サルモネラ血清型 <i>Infantis</i> の遺伝子 型に関する研究	村上光一，野田多美枝，濱崎光宏，竹 中重幸，堀川和美，石黒靖尚	第53回福岡県公衆衛生学会 （福岡市），平成18年5月18日
食品から検出された病原因子保有大 腸菌について	濱崎光宏，堀川和美，村上光一，野田 多美枝，竹中重幸，石黒靖尚	第32回九州衛生環境技術協議会 （北九州市），平成18年10月12日
高齢者福祉施設におけるヒト・メタ ニューモウイルス集団感染事例につ いて	江藤良樹，石橋哲也，世良暢之，千々 和勝己	第32回九州衛生環境技術協議会 （北九州市）， 平成18年10月12日
ポジティブリスト制施行後の残留農 薬検査の現状について	芦塚由紀，村田さつき，梶原淳睦，平川博 仙，堀 就英，中川礼子	第32回九州衛生環境技術協議会 （北九州市），平成18年10月12日
全シアン蒸留時における EDTA と次 亜塩素酸ナトリウム（残留塩素）に よるシアン化物イオンの生成	梶原佑介，馬場義輝	第32回九州衛生環境技術協議会 （北九州市），平成18年10月12日
北九州市における絶滅危惧水草ガシ ャモク個体群の近年の推移	真鍋徹 ^{*1} ，須田隆一，清水敬司 ^{*2} ，大野 睦子 ^{*3} ，山田裕美 ^{*4} *1 北九州市立自然史・歴史博物館 *2 (株)三洋コンサルタント *3 水草研究会 *4 北九州市環境局	日本生態学会九州地区第51回大会 （鹿児島市）， 平成18年5月20-21日
柳川市二ツ川の底生動物相	緒方健，山崎正敏，中村朋史，須田隆 一	第32回九州衛生環境技術協議会 （北九州市）， 平成18年10月12日
里山の土壌性節足動物相	山崎正敏，須田隆一，緒方健，中村朋 史	第32回九州衛生環境技術協議会 （北九州市）， 平成18年10月12日
計（国内学会（地方））		10件

(4) 報告書一覧

委託事業名	報告書名	執筆者	発行年月
平成18年度 厚生労働科学研究費補助金 健康科学総合研究事業	(平成18年度分担研究報告書) 健康危機管理発生時の地方衛生研究所における調査及び検査体制の現状把握と検査等の精度管理の体制に関する調査研究	吉村健清, 小野塚大介, 世良暢之, 田中義人, 岡部信彦, 郡山一明	平成19年3月
平成18年度 厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業	(平成18年度分担研究報告書) 九州地区における食品由来感染症の拡大防止・予防に関する取り組み-IS-printing System に関する基礎的研究-	堀川和美, 小野塚大介, 河野喜美子, 川内良介, 徳崎里美, 眞子純孝, 山崎省吾, 植木信介, 八尋俊輔, 杉谷和加奈, 緒方喜久代, 上野伸広, 久高潤, 大岡唯祐, 林哲也, 楠本正博	平成19年3月
平成18年度 厚生労働科学研究費補助金 食品の安全性高度化推進研究事業	(平成18年度分担研究報告書) 油症一斉検診の全国集計結果及び油症患者データベースの構築	吉村健清, 片岡恭一郎, 高尾佳子, 小野塚大介, 梶原淳睦	平成19年3月
	(平成18年度分担研究報告書) 油症認定患者追跡調査	吉村健清, 片岡恭一郎, 高尾佳子, 小野塚大介	平成19年3月
平成18年度 環境省委託業務	平成18年度化学物質環境実態調査分析法(LC/MS)開発調査結果報告書	飛石和大, 桜木建治, 松枝隆彦, 大野健治, 安武大輔, 池浦太荘, 田中義人, 塚谷裕子, 本村泰寛*, 亀井幹登* * 環境保全課	平成19年3月
平成18年度 環境省委託業務	平成18年度化学物質環境実態調査初期環境調査(水質)結果報告書	飛石和大, 桜木建治, 松枝隆彦, 大野健治, 安武大輔, 池浦太荘, 田中義人, 塚谷裕子, 本村泰寛*, 亀井幹登* * 環境保全課	平成19年3月
平成18年度 環境省委託業務	平成18年度化学物質環境実態調査初期環境調査(大気)結果報告書	飛石和大, 桜木建治, 松枝隆彦, 大野健治, 安武大輔, 本村泰寛*, 亀井幹登* * 環境保全課	平成19年3月
平成18年度 環境省委託業務	平成18年度化学物質環境実態調査詳細環境調査(水質)結果報告書	飛石和大, 桜木建治, 松枝隆彦, 大野健治, 安武大輔, 池浦太荘, 田中義人, 塚谷裕子, 本村泰寛*, 亀井幹登* * 環境保全課	平成19年3月

委託事業名	報告書名	執筆者	発行年月
平成18年度 環境省委託業務	平成18年度化学物質環境実態調査 モニタリング調査（大気）結果報告書	飛石和大, 桜木建治, 松枝隆彦, 大野健治, 安武大輔, 本村泰寛*, 亀井幹登* * 環境保全課	平成19年3月
平成18年度 厚生科学研究費 補助新興・再興感染症事業	(平成18年度総括・分担研究報告書) 食品由来感染症の細菌学的疫学指標 のデータベース化	寺嶋淳* (主任研究者), 堀川和美, 村上光一, 野田多美 枝 他 * 国立感染症研究所	平成19年3月
平成17年度 厚生労働科学研究費補助金 食品の安心・安全確保推進研究事業	(平成17年度分担研究報告書) 食品 中臭素化ダイオキシン及びその関連 化合物質汚染調査	中川礼子, 芦塚由紀, 堀 就英, 安武大輔, 佐々木久美子* * 国立医薬品食品衛生研究所	平成19年7月
	(平成17年度分担研究報告書) 食品 中ダイオキシン類分析の迅速化・信 頼性向上に関する研究 食品中ダイ オキシン類分析における高速溶媒抽 出法の応用に関する研究—動物性食 品の迅速抽出への応用—	堤 智昭*, 堀 就英, 安武大輔, 飛石和大, 中川礼子, 飯田隆雄 * 国立医薬品食品衛生研究所	平成19年7月
平成18年度 厚生労働科学研究費補助金 食品の安全性高度化推進研究事業	(熱媒体の人体影響とその治療法に 関する研究 平成18年度総括・分担 研究報告書) 油症患者血液中の PCDF 類実態調査	吉村健清, 梶原淳睦, 中川礼子, 片岡恭一郎, 松枝隆彦, 平川 博仙, 堀 就英, 飛石和大, 芦 塚由紀, 安武大輔, 小野塚大介, 村田さつき, 高尾佳子, 戸高 尊* ¹ , 井上 英* ² , 飯田隆雄* ³ *1 九州大学 *2 日本食品衛生協会 *3 北九州生活科学センター	平成19年3月
	(熱媒体の人体影響とその治療法に 関する研究 平成18年度総括・分担 研究報告書) 油症患者血液中 P C B 等追跡調査に おける分析法の改良およびその評価 に関する研究	吉村健清, 梶原淳睦, 中川礼子, 片岡恭一郎, 松枝隆彦, 平川 博仙, 堀 就英, 飛石和大, 芦 塚由紀, 安武大輔, 小野塚大介, 村田さつき, 高尾佳子, 戸高 尊* ¹ , 井上 英* ² , 飯田隆雄* ³ *1 九州大学 *2 日本食品衛生協会 *3 北九州生活科学センター	平成19年3月

委託事業名	報告書名	執筆者	発行年月
平成18年度 厚生労働科学研究費補助金 化学物質リスク研究事業	(前向きコホート研究による先天異常モニタリング, 特に尿道下裂, 停留精巣のリスク要因と内分泌かく乱物質に対する感受性の解明 平成18年度総括・分担研究報告書) 妊婦の血液及び母乳中のダイオキシン類, PCB濃度	梶原淳睦, 吉村健清, 中川礼子, 平川博仙, 堀 就英, 芦塚由紀, 村田さつき, 松枝隆彦, 飛石和大, 安武大輔, 戸高 尊* ¹ , 井上英* ² , 飯田隆雄* ³ , *1 九州大学 *2 日本食品衛生協会 *3 北九州生活科学センター	平成19年3月
平成18年度 厚生労働科学研究費補助金 地域健康危機管理研究事業	(平成18年度分担研究報告書) シックハウス症候群の実体解明及び具体的対応方策に関する研究	力寿雄, 岩本眞二, 吉村健清	平成19年3月
平成18年度 独立行政法人環境再生保全機構委託研究	高活性炭素繊維を用いた沿道排ガス削減技術に関する調査報告書	下原孝章, 喜多條鮎子	平成19年3月
平成18年度 独立行政法人環境再生保全機構委託研究	局地汚染地域における窒素酸化物及び浮遊粒子状物質の複合的削減のための対策技術に関する調査研究	下原孝章, 新谷俊二	平成19年3月
平成18年度 環境省委託業務	平成18年度有害大気汚染物質発生源対策調査	力寿雄, 大石興弘, 田上四郎, 有田明人, 山本重一, 岩本眞二	平成19年3月
平成18年度 行政研究	排水中の栄養塩の流出形態及び除去に関する研究報告書	永淵義孝, 松尾宏, 田中義人, 熊谷博史, 志水信弘, 池浦太庄, 中村又善	平成19年3月
平成18年度 日韓海峡沿岸県市道環境技術交流事業	集水域の地質・植生が異なる河川水調査報告書	松尾 宏, 檜崎幸範, 熊谷博史	平成18年12月
平成18年度 地域新生コンソーシアム研究開発事業	「焼却残渣の脱塩促進と資源化のための環境持続型技術の開発」成果報告書	島岡隆行* (代表研究者) 濱村研吾, 徳永隆司, 永瀬誠,, 高橋浩司, 志水信弘, 土田大輔 * 九州大学	平成19年3月
平成18年度 環境省委託業務	平成18年度環境省委託業務 酸性雨モニタリング (土壌・植生) 調査結果報告書	須田隆一, 山崎正敏	平成19年3月
計 (報告書)		23件	